

令和8年度第1回新鳥取県史編さん会議経済部会議事録（概要）

日時 令和8年8月1日（土）13:30～15:00

会場 鳥取県立公文書館2階会議室

参加者 多田部会長、板垣委員、伊藤委員、大津委員、田中委員、安岡委員、吉弘委員
（リモート参加）中間委員、中村委員
（オブザーバー参加）岸本政治部会長、長 社会部会長
西村館長、高橋専門員、石賀

開会

西村館長）今日は大変暑い中鳥取までお越しいただき、オンラインの先生方もお時間を作っていただき、ありがとうございます。令和13年度の刊行に向けて、執筆・調査していただくが、本日は最初の顔合わせということで、調査執筆項目についての検討、調整なども行っていただきたい。あわせて、資料調査の仕方や、事務局が提供可能な資料についてもお伝えする。

1 委員自己紹介

2 協議

（1）執筆項目について

多田部会長より協議資料1-1 経済分野執筆項目について説明。

伊藤委員）第2章第8節 水産業について、境港は、鳥取県内だけでなく日本海及び日本全体の中での水産都市的な意味合いを持っているので、1つの節として独立させた方が鳥取県の特徴をよりアピールできるのではないかと。

8節は「戦後水産行政と漁業」という形で、鳥取県全般、特に東中部中心の漁業の展開と水産行政の話をして、9節に「水産都市境港の形成と展開」という形で、境港の漁業の話をするのはいかがでしょうか。

多田部会長）趣旨は理解できるが、執筆の分量的には大丈夫なのか？

事務局・石賀）分量については資料調査が進んでいく段階で調整していくことになると思う。

伊藤委員）もし承認いただければ、県東中部の水産業（第8節）については私よりふさわしい方を執筆者に推薦する。山口県史の現代編と一緒に執筆をした、元水産大学教授の板倉（信明）さん。岩美町出身で、漁師の出身。非常に鳥取県に精通している。まず私からお願いさせていただいて、執筆が難しければ私がカバーする。

西村館長）水産業を2つに分けるという点と、元水産大学の板倉先生と執筆を分担するという点について、承知した。

大津委員) 第2章「農林水産業」で節のタイトルに「戦後の」がついているものとついてないものとあるが、これには意図があるのか？

西村館長、多田部会長) 意図はない。正式なタイトルについては執筆の際にご提案いただきたい。

西村館長) 例えば、第2節の農業の展開はすごく広い形の項目だが、安岡委員はこんな風に書こうという構想は今の段階で持っていらっしゃるか。

安岡委員) 他の節で畜産や果樹、養蚕が特化して扱われているとすると、自分は米関係を担当するのかと想像していたが、そういうイメージで良いか。あるいは、農業協同組合の関係も扱ったりするかと思っていた。

多田部会長) おっしゃる通り。意図としては、米の話が中心になるかもしれないが、農業組合や協同組合といった推進体制の話も見ていただいても良い。

安岡委員) 農村政策とかそういうところですかね。

多田部会長) 実際執筆しながら色々修正することになるが、とりあえずこれでご了承いただいたということで、まずは執筆作業を進めていただきたい。

(2) 執筆の進め方について

事務局・石賀) 協議資料の2-1について説明。

西村館長) 執筆の分量について、対象とする時期の長短や、資料の残り具合に差異があることが想定されるため、ある程度調査が進んだ段階で執筆の分量をご相談し、その時点で委託契約を結ばせていただくということを考えている。

大津委員) 原稿の提出は令和12年3月末ということだが、原稿とは完成原稿を指すのか。いったん書けたものを出して多田部会長から修正指示を受けて、修正したものを完成版として締め切りまでに提出する形なのか、12年3月末までにひとまず書けたものを提出して、締め切り後に修正していく作業が入っていくのか、どういうイメージか？

西村館長) 令和12年度が編集の期間で、翌13年度に刊行ということを考えている。11年度末までに出していただければ、そこから記述等についての編集作業を行う。協議資料に「鳥取県史研究という媒体もご用意している」と書いているが、ある程度の分量としてできたものから、そういった場に出していただくということもできる。

大津委員) 鳥取県史研究以外には成果を発表してはいけないのか。

西村館長) 執筆者に提出をお願いしている誓約書に、「県史で調査された資料を使われる場合は、事務局にご一報入れた上で発表していただきたい」ということを謳っている。

板垣委員) 新聞資料の検索の状況はどうなっているか？

西村館長) 大因伯(鳥取県出身者の会の雑誌)は原本が図書館にあり、貸出しはできないが、閉架図書で見ることができる。日本海新聞は、1945年8月分以降が残っており、その複製本が図書館の2階に開架してある。同じもののマイクロフィルムもある。新日本海新聞社が記事の見出し検索をできるデータベースを販売しており、来年度の予算で購入予定。プランゲ文庫はマイクロフィルムで図書館に保管されている。

伊藤委員) 調査・執筆期間中の部会での研究会や進捗状況の報告会は予定されているのか。

事務局・石賀) 年に数回の部会開催を予定している。部会単位だけではなく、農林水産業などの章ごとで集まることも検討中。

安岡委員) オーラルヒストリーについて、本当に大事な取り組みだと思うので、是非進めていただきたいが、過去の自治体史編さんの過程で集められたオーラルヒストリーは、資料としてきちんと許諾等を取ってないため、後で使えなくなる例が各地で結構ある。もちろん主題や語り手によって個別の対応も必要になると思うが、長期的に使える資料として残してほしい。

西村館長) 戦前の近代編の調査をした時にも、たくさんの方から聞き取りを行ったものの、実際に資料集やブックレットに反映できたのはその一部だったという現状はある。これから新しくオーラル聞き取りをする場合の資料保存と使い道については、事務局の方でもルールを決めていきたい。

編さんの柱について

西村館長) 協議資料2-2について説明。

板垣委員) 第1の柱「人々の声」について、基本的には全面的に賛同するが、県の自治体史の叙述に、公人ではない人の個人名を織り込んで、例えばこの人はこう語ったとか、記事のインタビューにこう答えたという叙述をしても良いということか。

西村館長) 一般の、無名の人について、個人名を入れた記述にするかどうかは考えないといけない。新聞記事の引用や、団体等の代表的な中心的な人物がこう語ったという形で個人名を出せることはあるかもしれないが。

板垣委員) プライバシーの問題は比較的新しい話。昔の新聞では普通に個人情報が出ていたが、それをそのまま使うのかどうかは県史として今後検討の余地があると思う。

多田部会長) その辺りは個別具体的に確認する必要がある。

(3) 資料調査について

事務局・石賀) 協議資料 3-1 について説明。

伊藤委員) 鳥取県内の市町村誌、自治体史関連の資料目録と、鳥取県漁連の団体史や県内水産会社の社史編さん時に収集された資料目録等の、図書館もしくは公文書館による把握状況が分かれば、ご紹介いただきたい。

西村館長) まず松江市史のような公民館の資料調査はやっておらず、資料目録もない。団体史、社史についても、作成時の資料目録は把握していない。それから自治体史についても作成時の資料目録を悉皆的には把握していない。今照会しても多分出てこないだろう。しかし、市町村の、例えば境港だと市史編さん室が今でもあるが、そちらが所蔵してる資料の目録などをいただいたり、あるいは山陰歴史館も米子市史を作った時にかなり集めた資料の目録などはある。

伊藤委員) 鳥根県の益田市で、益田市史も 30 年ほど前に 2 回目の市史編さんを完了しているが、益田市立図書館から資料目録を紹介いただいたことがある。

西村館長) 市町村の図書館には聞いてみたい。

大津委員) 新聞資料などの現物しかない資料は、図書館同士で融通して米子の図書館とかに持ってきていただく形でも見られるのか、それとも禁帯出で持ち出せないため、鳥取まで来ないと確認できないのか。

西村館長) 県立図書館に聞いてみないと分からないが、多分新聞は持ち出せないだろう。図書であれば、県内のどこでも借りて返せるという仕組みになっている。そのため、たくさんの新聞資料をめぐって見られたい場合は、来ていただいて見ていただくのが良い。「この日付でこの記事が出ているはずだ」ということであれば事務局の方でスキャンしたものを共有させていただく。

伊藤委員) 県外の大学所蔵の資料、図書の複写依頼は事務局にお願いできるものなのか？

西村館長) 大丈夫です。

事務局・石賀) クラウドでの調査について説明。特段の質問や意見はなし。

（４）その他

事務局・石賀）協議資料４について説明。特段の質問や意見はなし。

【閉会】

岸本政治部会長）今後相談させていただきたいことが２点ある。今回の県史は、通史的な記述の仕方ではなく、分野ごとに作っていくという形式を取っている。その関係でどちらの分野に入れていったら良いかの判断が難しい項目がある。具体的には経済の方だと多田部会長と吉弘委員の執筆項目が、政治分野と経済分野に被っているような形のものがあるため、個別にお話をさせていただきたい。

もう１つは、統計課の大川（篤志）さん（政治部会）に「数値から見た戦後の鳥取」みたいな形のコラムを全分野で書いていただこうと思っている。経済分野の先生方でこういうものを書いてほしいというリクエストがあれば教えてほしい。

長社会部会長）社会分野は政治分野ほど内容の重複はないと思うが、社会分野の方だと例えば１章では農民運動、労働運動という形で社会運動の展開などを扱っている。場合によっては、経済分野の２章の農地改革や、第１章の終戦直後の経済・産業といったあたりと、意見交換をさせていただく可能性がある。社会分野では、GHQ キャンプ文書を介した議論はかなり蓄積があり、戦後直後のことについては情報を提供できる。